

校長だより【71】 創立 116 年目の本校で文化財発見！ 030607



今日は東高の文化遺産を2つご紹介します。

まず1つ目はこちら、入学式などでステージに飾られる校旗です。いつも校長室の書棚の上の箱に、このようにしまっていますが、ずいぶんと年季の入った箱でしょう？



箱の右端の商標に注目してみてください。「横浜 野澤屋」とあります。



実は校長室には、このような木札もあります。表に「神奈川県立厚木東高等学校校旗  
横浜入九野澤屋調整」裏側には「昭和二十九年三月新調」とあります。旧字体です。



ということは、今ある校旗は**67年もの歴史を刻んでいる**ということになります！

さて、旗を作ってくださった「野澤屋」さんってどんなお店？ まだあるのかしら？ という疑問がわくと思いますが、調べてみましたよ。

野澤屋（のざわや）は**横浜市中区伊勢佐木町にあった百貨店**です。

その前身は1858年（安政5年）の日米通商条約に基づいて翌年開港した横浜で野澤屋庄三郎が開いた生糸輸出などを行っていた野澤屋が始まりです。1864年に茂木惣兵衛が、その暖簾を引き継いで**野澤屋呉服店**を創業しました。商号の「**入丸**」は野澤屋庄三郎の墓にも刻まれていることから、そのころから使われていた商号であると考えられます。明治21年呉服店の中に絹布部を設けたところ外国人にものすごく売れて、明治36年に絹専門店として独立しました。茂木は、呉服店だけでなく、金融業、不動産業、製糸業と、経営を多角化し、野澤屋は**横浜を代表する財閥**に成長しました。1910年（明治43年＝本校創立の4年後です）に伊勢佐木町にショーウィンドウのある2階建ての支店を開き、従来の座売りの形式を改めて、陳列式とするなどデパートメントストアのスタイルを取り入れた呉服の百貨店となり、三越や高島屋に匹敵する一流店との評価を得、昭和初期には**モボ・モガ**（＝**モダンボーイ、モダンガールのこと**です）が闊歩した時代の**モダニズム**を象徴する横浜の代表的な百貨店に成長しました。

第二次世界大戦で商売ができなくなり、1945年（昭和20年）の横浜大空襲では建物は焼失をまぬかれましたが、戦後は1955年（昭和30年）に返還されるまで、占領軍のPX（米国軍隊内の売店のこと）として接收されました。

その後、相鉄資本の横浜駅周辺開発により、高島屋、相鉄ジョイナス、ダイヤモンド地下街、そごうなどに客を奪われ、伊勢佐木町のデパートは次第にすたれていくことになりました。1974年（昭和49年）松坂屋の傘下に入り**ノザワ松坂屋**に改名。1977年（昭和52年）伊勢佐木町のライバルデパート**松屋**を買収して合併し**横浜松坂屋**となり、野澤屋の商号は消えました。

ということは、本校の現在の校旗が新調された、昭和27年には野澤屋さんはまだ米軍に接收されていたということですね。スゴイお店に作っていただいたのですね。

私事ですが、祖父母が生前伊勢佐木町に住んでいました。祖母はモガだったということでしたので、野澤屋でお洋服を買っていたかもしれません。そのころ野澤屋さんが、厚木東高校の素晴らしい校旗を作ってくださっていたのだと思うと、大変感慨深いです。当時もちろん私はまだ生まれていませんでしたが、ノザワ松坂屋や横浜松坂屋には、子供のころに行った思い出があります。

本校の校旗を探究したら、横浜と、祖母の歴史に重なりました。

2つ目は、もっと古いんですよ。これです。



何だかわかりますか？ 商店街の福引で大当たりの時に「カランカラン♪」って鳴らすアレです。そうです、ハンドベルです。昔、学校ではこれを始業のベルとして使っていました。つまり今でいうチャイムですね。

何と書いてあるか、拡大してみると……



「大正十二年七月 寄贈 厚木町 <sup>よどや</sup> 淀屋」と書いてあります。なんと97年前のベルです。いい音がします。チャイムが壊れた時には、本当にこれを鳴らしますからね。

さて、横浜の野澤屋さんの次は、地元「厚木町」の「淀屋」さん。どんなお店なのか、どなたか、探究してみませんか？

郷土資料館に収めるレベルの、歴史的文化財と言っても良いお宝を、厚木東高校で発見しました。



入学式の時の校旗

[野澤屋 - Wikipedia](#) (参考資料)